

資料

東京パラリンピック大会 (1964) に関するテレビ放送

— NHKでテレビ放送された映像に着目して —

崎田 嘉寛 (広島国際大学)

A historical Study of the Tokyo Paralympic Games (1964) in Television Broadcast
— Focus on the images televised by Japan Broadcasting Corporation (NHK) —SAKITA Yoshihiro
(Hiroshima International University)

はじめに

東京パラリンピック大会とは、1964年11月8日から14日に東京で開催された、障害者¹⁾を対象とした国際的なスポーツ競技会の通称²⁾の一つである。同大会の日本における公文書上の正称は、「国際身体障害者スポーツ大会」であり、「第一部 国際ストーク・マンデビル競技会」(11月8日から12日)と「第二部 身体障害者スポーツ大会」(11月13日から14日)に区分されている(以下大会名の鍵括弧は省略)³⁾。また、「パラリンピック (Paralympic)」という用語は、「パラプレジア (Paraplegia)」と「オリンピック (Olympic)」を組み合わせて創案された造語⁴⁾であり、大会の愛称として使用されている。なお、1989年に国際パラリンピック委員会が組織されて以降、1964年11月8日から12日に東京で開催された国際ストーク・マンデビル競技会(第13回)が、第2回パラリンピック夏季大会と位置づけられるようになり⁵⁾、今日に至っている。

東京パラリンピック大会については、これまでのスポーツ史研究分野において、研究が十分に蓄積されているわけではない⁶⁾。従来の研究では、総じて東京パラリンピック大会の概要を示し、日本における障害者スポーツの起点として位置づけ

ている。また、歴史記述で使用されている資料は、公式報告書⁷⁾あるいは新聞報道、関係者の回想に限定されている。

そこで、本研究は、東京パラリンピック大会に関して日本放送協会(以下、NHK)でテレビ放送された映像を発掘し、一覧として整理・提示することを目的とする。また、NHKが東京パラリンピック大会をどのように放映したかに言及する。

本研究で使用するテレビ映像は、NHKアーカイブス(川口市)に所蔵されているものである。NHKアーカイブスでは、NHKがこれまで放映してきたすべての番組情報(番組名、放送日、放送時間、放送局、副題、内容の概要、映像)をデータベース化し、キーワード等による検索が可能である。しかしながら、すべての番組の「映像」が保存されているわけではない。そのため、研究手順としては、まず、NHKアーカイブス作成のデータベース情報に基づいて、東京パラリンピック大会の準備期から実施後まで(1961年から1964年まで)を対象として、関連ある番組を抽出し一覧とする。次に、閲覧可能な番組の「映像」を視聴し、この内容の概要を示す。「映像」が保存されておらず閲覧できない番組については、番組情報の提示にとどめる。また、便宜上、1963年

11月8日の「国際身体障害者スポーツ大会の開催について」（閣議了解）を区切りとして、前半を開催経緯として後半を開催前後として記述する。

東京パラリンピック大会が開催された1964年度のNHKテレビ受信契約数（普通・カラー合計）は、約1713万件⁶⁾であり、当時のマスメディアの一翼を担っている。ただし、家庭用ビデオテープレコーダの販売開始は1975年前後であり、NHKによる組織的な番組保存の開始は1981年である。これらのことを勘案すると、1960年代のテレビ映像はそれ自体がきわめて貴重であり、それらはスポーツ史研究の現代史分野にとっても活用が期待される新たな資料群である。また、東京パラリンピック大会のテレビ放送がどの程度行なわれたのかは先行研究では判然としないため、本稿ではNHKアーカイブスのデータベース情報に基づいて、大会の準備過程を含めたニュースおよび番組（ニュース以外）の情報についても言及することで、基礎資料となるよう整備を行なうことにしたい。

なお、東京パラリンピック大会の開催の経緯に関しても、先行研究では用いられていない国立公文書館所蔵の『国際身体障害者スポーツ大会』⁹⁾を資料とし、その概要を示すことにする。

1. 東京パラリンピック大会の開催経緯とNHKによるテレビ放送

東京パラリンピック大会の開催にいたる経緯を概観しつつ、NHKによるテレビ放送の状況について述べる。

東京パラリンピック大会の開催に向けた動きは、1961年頃からはじまる¹⁰⁾。当初は一部の関係者のみで協議・推進されていた。協議の中では「身障者のため明るいニュースだが、受入態勢となると相当問題だ」¹¹⁾といった意見が出されており、開催に積極的ではない面もあったようである。しかしながら、1961年8月に「身体障害者スポーツ振興会」¹²⁾が、1962年5月には「国際身体障害者スポーツ大会準備委員会」が結成され、1963年2月に「財団法人国際障害者スポーツ大会

運営委員会」が認可されることによって、組織的な準備が進んだ。一方で、国内での障害者体育大会の開催や、国際大会への選手派遣を重ねることで実績が積み重ねられていった。具体的には、1961年10月に大分県で開催された「身体障害者体育大会」¹³⁾は、戦後の日本で組織的に実施された障害者のスポーツ大会として重要な契機となっている。また、1962年には第11回国際ストーク・マンデビル競技会に選手2名を派遣したのを嚆矢として、1963年7月の第1回国際身体障害者スポーツ大会、同月の第12回国際ストーク・マンデビル競技会へも選手を派遣している。

それでは、東京パラリンピック大会の開催に向けた経緯について、NHKではどのようなテレビ放送を行なったのであろうか。NHKアーカイブスのデータベース情報に基づいて、便宜上(1)ニュース、(2)番組（ニュース以外）に分けて、放送状況とその内容を一覧表で示す。ニュース番組については、前日あるいは当日に起こった出来事を簡潔に伝える番組としての特殊性を考慮し、ニュース以外の番組と分けて示すこととした。なお、NHKと東京パラリンピック大会の組織的に関わりについてであるが、1962年5月の「国際身体障害者スポーツ大会準備打合せ会」以降、主要な会議と組織にはNHK厚生事業団のメンバーが参画している¹⁴⁾。

(1) ニュース

本章の対象期間（1961年1月～1963年11月）についてNHKアーカイブスのデータベース情報を調査した結果、東京パラリンピック大会の開催経緯に関連するニュース報道は、9件（1962年7月～1963年8月）確認できた。この概要を表1に示す。ここでは、第11回国際ストーク・マンデビル競技会（表中番号1～4）、第1回国際身体障害者スポーツ大会（表中番号5、6、9）、第12回国際ストーク・マンデビル競技会（表中番号7、8）についての報道概要を確認することができる。いずれもモノクローム映像で、表中番号4を除いてナレーションの音声は保存されていない。

第11回国際ストック・マンデビル競技会に関するニュース映像（表中番号1～4）は、日本からはじめて国際スポーツ大会に障害者の選手を派遣するということがあって、派遣前の様子が中心的に放映されている。ただし、現地での様子は閉会式のみであり、競技の様子は放映されていない。続いて、第1回国際身体障害者スポーツ大会および第12回国際ストック・マンデビル競技会については、競技の様子を中心に外国人選手を含めて放映している（表中番号5～9）。このことは、障害者の国際的な競技スポーツ大会の存在をテレビというメディアを通じて、視覚的に知らしめた端緒となったと考えられる。

(2) 番組（ニュース以外）

上述のニュースと同様の調査で、東京パラリンピック大会の開催経緯に関連する番組（ニュース以外）は5件（1962年7月～1963年7月）確認できた。この放送状況を表2に示している。しかしながら、表中番号4で示した1963年2月3日の「日本の素顔」(切れた神経) 以外は、NHKアーカイブスのデータベースで番組情報の一部が確認できるものの「映像」は保存されていない。「日本の素顔」(切れた神経) という番組では、スポーツによるリハビリテーションの解説、国立別府保養所の様子、第11回国際ストック・マンデビル競技会に出場した吉田勝也のインタビュー、外国人選手の社会復帰の現状、という構成がとられている。内容は、日本における障害者の社会復帰が立

表1 1962年7月から1963年8月までのNHKニュースの概要

	放送日	放送局	副題
1	1962年7月9日(月)	GTV	身体障害者オリンピック代表 NHKへ (72秒)
			・内幸町のNHK会館前 ・雨の中オープンカーで、会館前に乗りつける吉田選手と伊藤選手 ・日の丸のマークを胸につけた選手の様子 ・女子職員から花束を受け取る選手と役員 ・会館前にならんだNHK関係者 ・NHK関係者に見送られながら、オープンカーの屋根を覆って去っていく車
2	1962年7月15日(日)	GTV	身体障害者のオリンピック代表団結式 (55秒)
			・日本代表選手団結式 ・挨拶する関係者の様子 ・選手紹介 吉田選手、伊藤選手 ・関係者の挨拶/会場の様子 ・日の丸を選手団の平田団長に手渡す/会場からの拍手 ・挨拶する伊藤選手 ・万歳三唱
3	1962年7月16日(月)	GTV	身障者オリンピックの日本代表出発 (63秒)
			・羽田空港ロビーでの歓送の様子 ・車椅子の吉田・伊藤選手と見送りの人々/日の丸が入った車椅子 ・花束贈呈、万歳三唱、車椅子で飛行機に乗り込む選手 ・昇降機で機内に入る選手/手を振る大分からの見送りの人々 ・動き出すBOAC機/「国際身体障害者スポーツ大会準備委員会」の横断幕
4	1962年7月30日(月)	GTV	身体障害者オリンピック閉会式 (64秒)
			・「身体障害者オリンピック閉会式」 ・車椅子の吉田、伊藤選手 ・大会会長グッドマン博士の挨拶/優勝者に賞品の授与 ・吉田選手に参加賞の授与 「4日間にわたる大会を終え、閉会式を迎えたオリンピック会場。日本の吉田選手、それに伊藤選手です。大会委員長グッドマン博士の軽快な挨拶です。各種競技の優勝者にはメダルや賞状が贈られます。また、参加した選手全員にも記念品が贈られ、日本選手を代表して吉田さんが参加賞を受けました。こうして参加22カ国300人の選手たちは2年後の再会を誓い合いながら4日間にわたるお互いの健闘を称えあいました」(ナレーション)
5	1963年7月14日(日)	GTV	身体障害者のオリンピックへ 代表選手団出発 (134秒)
			・並ぶ代表選手団一行/花束贈呈 ・搭乗機へ向かう代表選手団一行 ・タラップで手を振る一行/送迎デッキで見送る人たち ・万歳/花束贈呈 「横浜市身体障害者福祉 岩井良平氏」「浅野正次君 秩父市」の歓迎のほり ・並ぶ代表団/搭乗機に向かう代表団

	1963年7月21日(日)	GTV	身体障害者オリンピックの日本選手団～海外特派員だより～（1401秒）
6	<p>開催国、オーストリア、リンツ市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広場にある塔／湖の風景／通行人／路面電車と自動車／橋を歩く人々／ソフトクリームを食べながら歩く女性 ・ 歓迎の横断幕／宿舍からでてくる日本選手たち ・ ランニングシャツでトレーニング（体操・ストレッチ・腕立て）をする日本選手、ランニングの様子 ・ スタートの練習／砲丸投げ／槍投げ／外国人選手から教わる日本人選手／外国人選手と一緒に練習する様子 ・ 宿舎でスープを飲む日本人選手／外国人選手に混じって食事をする日本人選手 ・ カメラで写真を撮り合う日本人と外国人選手の様子／サインの交換の様子 ・ 湖で水泳を楽しむ日本人選手たち <p>第1回国際身体障害者スポーツ大会の開会式（リンツ市陸上競技場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技場の参加国の旗／日の丸 ・ 演奏する音楽隊／車椅子や支えられて入場する選手たち／整列した各国選手団 ・ 主催者の挨拶／観客／日本人選手 <p>競技の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メディシンボール投げ（外国人選手）／走り幅跳び（外国人選手、浅野選手）／砲丸投げ（高崎選手）／短距離競走（外国人選手、高崎選手）／メディシンボール投げ（若井選手）／義足で競歩（外国人選手）／短距離障害走（有富選手）／立ち幅跳び（外国人選手・日本人選手）／取材する外国人カメラマン／槍投げ（若井選手）／外国のメディア取材／槍投げ（有富選手） ・ 競技場の風景 		
7	1963年7月28日(日)	GTV	身体障害者オリンピック（170秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第12回ストークマンデビル競技大会 ・ 参加する車椅子の日本人選手／参加国の国旗／日の丸 ・ 会場の車椅子の選手／日本選手団の様子（安藤選手、堤選手） ・ 主催者の挨拶（グッドマン博士） ・ 会場にヘリコプターが着陸／ストレッチャーに乗せて人（詳細不明）を運ぶ様子／拍手する選手たち ・ 車椅子の日本人選手の様子 ・ 車椅子バスケットボールの試合（シュートする外国人選手） 		
8	1963年7月29日(月)	GTV	身体障害者オリンピック大会～海外特派員だより～（682秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子バスケットボール競技の会場 ニュージーランドとスイスの試合（スイスのフリースロー、ニュージーランドのシュート） スイス選手の車椅子の修理／作戦タイムの様子 ・ 卓球競技の会場 試合中の日本人選手／苦戦する日本人選手／笑顔でゲームを終える日本人選手／車椅子の調整／イスラエルの選手と写真を撮る日本人選手／卓球会場の様子／待機する医療班／ダブルスのゲーム（イスラエルVSイタリア） ・ アーチェリー競技の会場 的の矢を確認する審判団／見守る日本人関係者／競技の様子（外国人選手・日本人選手）／電話をする看護師 見守る医療班／技を競う選手たち／選手へのドリンクサービス／望遠鏡で的を確認する外国人選手／的を狙う日本人選手／アーチェリー会場の様子 着物姿で交流する様子 ・ 砲丸投げ競技の会場 車椅子の外国人女性選手／砲丸を投げる様子／槍投げの様子 		
9	1963年8月3日(土)	GTV	NHK特派員だより まとめ（421秒）
	<p>（No.6のダイジェスト版、同じ映像が使用されている）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「NHK特派員だより」のタイトル ・ 第1回国際身体障害者スポーツ大会 リンツの市街地／湖／広場の塔／通行人／横断幕 ・ 日本人選手の様子 トレーニングの様子／湖で泳ぐ選手／各国の選手と交流／食堂／スープを飲む選手 ・ 現地の新聞を読む選手 ・ 開会式会場 音楽隊／車椅子選手の入場／整列した選手団／挨拶する主催者／各国選手団／観客席 ・ 日本人選手の競技の様子 競走／走り幅跳び／歩行競技／取材するメディア／幅跳び／砲丸投げ／トラック競技／競技場の風景 		

(注) NHKアーカイブス作成のデータベースより筆者が検索・作成した。検索対象期間は、1961年1月から1963年11月まで。放送日、放送局、放送時間、副題はデータベースの情報による。内容の概要は、筆者が視聴により確認し作成した。「GTV」は総合テレビジョンの略記である。

表2 1962年7月から1963年7月までの番組（ニュース以外）の概要

	放送日	放送局	番組名	放送時間	副題（放送内容、出演者ほか）
1	1962年7月9日(月)	GTV	あすへの歩み	23:15~23:40	「車椅子にささえられて」(伊藤工、吉田勝也)
2	1962年7月15日(日)	GTV	スポーツグラフィック	9:30~9:45	「身体障害者のオリンピック」(平田準、伊藤工、吉田勝也)
3	1962年8月1日(水)	GTV	婦人の時間	13:20~14:00	「話題—身障者オリンピックから帰って—」(伊藤工、吉田勝也)
4	1963年2月3日(日)	GTV	日本の素顔	10:05~10:35	「切れた神経」(本文参照)
5	1963年7月13日(土)	ETV	若い広場	6:00~6:30	「障害にうちかって（パラリンピックに夢を）」(出演者等不明)

(注) NHKアーカイブス作成のデータベースより筆者が検索・作成した。検索対象期間は、1961年1月から1963年11月まで。放送日、放送局、番組名、放送時間、副題はデータベースの情報による。「GTV」は総合テレビジョンの略記、「ETV」は教育テレビジョンの略記である。再放送の情報については省略した。

ち遅れていることを中心に、スポーツを行なうことで障害者が社会復帰への活路を見出す、という流れである。スポーツの実施はあくまで手段としつつも、障害者がスポーツをすることに肯定的に報道していると言えよう。

そして、先のニュース報道と合わせて勘案すると、国外に派遣された日本人選手の様子は、東京パラリンピック大会の開催に向けた気運を醸成する一助となったと考えられる。

2. 東京パラリンピック大会の開催前後におけるNHKによるテレビ放送

東京パラリンピック大会に対して、政府は1963年11月8日に「国際身体障害者スポーツ大会の開催について」を閣議了解し、「関係行政機関は、その開催準備に協力するとともに、所要の便宜を供与する」ことを決定している¹⁵⁾。この閣議了解に基づいて、厚生省より関係各所に協力が要請されている¹⁶⁾。一方で、開催に向けた準備は部会を単位として進められ¹⁷⁾、その状況は閣議において「参加選手の決定、選手の送迎、選手村の設営、競技の実施、資金の確保につき、ほぼ当初の予定に従って準備が進められている」¹⁸⁾と閣議報告されている。

1964年11月8日からはじまった、第一部国際ストーク・マンデビル競技会には、21の国と地域から375名¹⁹⁾の選手が参加し、9競技²⁰⁾が実施されている。参加選手における女子選手の割合はおよ

そ20%（75名）であり、参加全選手のなかで日本人選手の割合はおよそ14%（53名）である（日本人女子選手は2名）。引き続き、13日と14日に第二部の身体障害者スポーツ大会が行なわれ、47都道府県（沖縄を含む）と指定6市（横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、北九州）、特別参加のドイツから487名（女性選手72名、男性選手415名）が参加し、すべての障害を対象として競技が実施されている²¹⁾。第二部の競技種目は、「肢体不自由者」が12種目（水泳4種目）、「視力障害者」が11種目（水泳2種目）、「聴覚障害者」が10種目（水泳4種目）である²²⁾。参加者は、一人が二競技（異なる種目）に水泳（希望者）を加えて実施するようになっている。

(1) ニュース

本章の対象期間（1963年11月～1964年12月）についてNHKアーカイブスのデータベース情報を調査した結果、東京パラリンピック大会開催前後の動向に関連するニュース報道は、33件（1964年3月～11月）確認できた。この概要を表3に示す。いずれもモノクローム映像で、ナレーションの音声は保存されていない。一部にインタビュー（表中番号22）や挨拶（表中番号3、18）の音声を確認することができる。ナレーションが保存されていないため、元となる原稿で何が伝えられたかについて正確な把握は困難である。しかしながら、閲覧可能な映像に基づいて分類すれ

ば、概ね次の6項目になる。①寄付・ボランティア・応援、②外国人選手の動向（出入国、滞在中の様子を含む）、③皇室、④日本人関係者の動向（準備、接待等を含む）、⑤各種競技（日本人、外国人）、⑥セレモニー・行事。そして、これらを総合的に検討すれば、NHKでは東京パラリンピック大会を「善意ある日本人が、外国人障害者スポーツ選手を日本に招待して行なった、国際的なスポーツイベント」として報道したと推察することができる。加えて、表中番号22のインタビューからは、障害者の社会復帰という問題も重要な要素であったことを窺い知ることができる。

(2) 番組（ニュース以外）

上述のニュースと同様の調査で、東京パラリ

ンピック大会の開催前後の動向に関連する番組（ニュース以外）は14件（1964年4月～11月）確認できた。この放送状況を表4に示している。ここでは、中継として「開会式」（11月8日10：30～11：00）と「車椅子バスケットボールの試合」（11月11日15：00～15：30）が、録画として「車椅子競技」（11月12日15：00～15：30）²³⁾が放映されていることがわかる。しかしながら、表中番号14で示した1964年11月20日の「現代の映像」（車椅子の闘魂）以外は、NHKアーカイブスのデータベースで番組情報の一部が確認できるものの「映像」は保存されていない。「現代の映像」（車椅子の闘魂）という番組は、東京パラリンピック大会後に放映されているが、車椅子バスケットボールの日本代表選手の練習・合宿から大会まで

表3 1964年3月から11月までのNHKニュースの概要

	放送日	放送局	放送時間	副題（放映時間）
1	3月15日(日)	GTV	6:00～6:10	身体障害者オリンピック目指してフェンシング大会（49秒）
				・車椅子に乗った身体障害者の選手たち ・フェンシングの指導を受ける身体障害者の選手たち（指導者1名、選手3～4名） ・フェンシングの練習
2	4月18日(土)	GTV	7:00～7:16	身障者オリンピックを目指して水泳の練習（46秒）
				・箱根療養所の庭で碁を打つ2人 ・車椅子でプールに向かう男性 ・看護師に助けられプールに入る男性 ・敷地内に造られた簡易プールで泳ぐ男性たち（5名）
3	4月18日(土)	GTV	19:00～19:30	身障者オリンピック通訳奉仕団の結成式（73秒）
				・結成式会場（日本赤十字本社講堂） ・パラリンピックのポスター ・着席する皇太子妃殿下（美智子妃） ・日本赤十字社長・島津忠承の挨拶 ・皇太子妃殿下・美智子妃（日本赤十字社名誉副総裁）からのおことば 「各国から参加される選手は、いつも体が不自由な方々でありますので、言葉の上での奉仕とともに、どうぞ終始赤十字の温かい、ゆきとどいた心で接してあげてくださいませ」 ・壇上に着席した通訳奉仕団の人たち
4	10月26日(月)	GTV	21:00～21:25	カツェリ夫人 パラリンピックに寄付（49秒）
				・事務局に入り、拍手で迎えられるカツェリ（A.Katseli）夫人 ・寄金を贈るカツェリ夫人（関係者と握手する夫人・挨拶する夫人・拍手する集まった人たち） ・懇談会（テーブル着席にて）
5	11月2日(月)	GTV	19:00～19:30	パラリンピックに出場する東京都代表の激励会（43秒）
				・パラリンピック東京都代表の激励会 ・列席した代表選手たち ・挨拶する都の関係者、旗の贈呈 ・日本代表選手用スポーツ帽を手に喜ぶ選手たち
6	11月2日(月)	GTV	21:00～21:25	パラリンピック 8日から開催（151秒）
				・車椅子バスケットボールの歓送試合／代表チームと一般チーム（スーツ姿）の試合 車椅子を操作してボールを追う選手たち／シュートが決まり拍手する応援の人たち ・参加選手の壮行会（横断幕に「国際身体障害者スポーツ大会参加選手壮行会」） 壮行会に参加した日本代表の選手たち／関係者のあいさつ／選手代表の決意表明 ・水泳のトレーニング（箱根療養所） ・アーチェリーのトレーニング／車椅子で移動するアーチェリー代表
7	11月4日(水)	GTV	21:00～21:25	パラリンピックの第1陣 アルゼンチン選手団来日（51秒）
				・羽田空港にて、車椅子を降ろす乗務員 ・乗務員に支えられてクラブを降ろすアルゼンチン女子選手 ・出迎えの日本の関係者（「Welcome to JAPAN」のプラカード） ・レイをかけてもらう車椅子に乗った選手たち ・専用バスに乗り、空港を出発する選手団

8	11月4日(水)	GTV	21:00~21:25	パラリンピックの会場の準備すすむ (43秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・代々木の織田フィールド／パラリンピック用陸上競技場 ・鉄パイプを組み仮設観客席の建設工事 ・木材を組んだ板の間の建設工事 			
9	1964年11月6日(金)	GTV	7:00~7:16	パラリンピックの外国選手団来日 選手村へ (80秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・夜の羽田空港にて、タラップを降りるルードウィヒ・グッドマン (Ludwig Guttman) 博士 ・乗務員の支えで飛行機から降りる外国人選手たち、リフトで降りる女性選手、車椅子に乗ってボールをつく男性選手 ・到着した専用バスに乗り込む外国人選手たち ・代々木の選手村の食堂で食事をする選手たち (全体、女性選手) ・車椅子で宿舎に入り手助けしてくれた係員に礼をいう女性選手 			
10	11月6日(金)	GTV	12:00~12:15	パラリンピックの開会式リハーサル (51秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・織田フィールド (代々木) でのパラリンピック開会式リハーサル ・鼓笛隊の行進／プラスバンドの演奏／各国プラカードと国旗の入場行進／車椅子で参加したイスラエルの選手 ・視察するグッドマン博士と関係者／整列したプラカードと国旗 			
11	11月6日(金)	GTV	19:00~19:30	パラリンピックの開会式リハーサル (51秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港にて ・介添人の手をかりて飛行機を降りる車椅子の男性選手／レイをかけられる女性選手、専用バスで空港を出ていく外国人選手たち ・代々木の選手村にて ・車椅子で散歩する女子選手／食堂でくつろぐイスラエル女性選手、屋外にてバスケットボールの練習をするイスラエル男子チーム 			
12	11月7日(土)	GTV	19:00~19:30	パラリンピックあす開幕 (192秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・代々木の選手村広場にて、日本選手団の結団式の様子 ・車椅子で参列する女性選手たち／常陸宮殿下の激励のおことば、とそれを聞く女性選手／日の丸の国旗を代表に渡す常陸宮殿下 ・大会に備えトレーニングに励む各国選手 (バスケットボール (イスラエル男子・アーチェリー男女1名) ・千羽鶴を贈りイタリア選手を励ます日本の少年少女 ・写真をとり合う選手たち ・選手を激励に訪れた東龍太郎都知事夫妻 ・選手村大食堂での都知事主催の歓迎レセプション ・外国人選手たちを激励する皇太子殿下ご夫妻 ・インターナショナルクラブでのレセプション (切手をはって作った大きな扇子／参列した各国の選手や役員) 			
13	11月7日(土)	GTV	不明	パラリンピック オーストラリアチーム (167秒)
14	11月7日(土)	GTV	不明	パラリンピック選手結団式 (167秒)
	・不明			
15	11月7日(土)	GTV	不明	パラリンピック選手村雑感 (250秒)
	・不明			
16	11月7日(土)	GTV	不明	パラリンピック (250秒)
	・不明			
17	11月8日(日)	GTV	7:00~7:16	パラリンピックきょう開会式 (37秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の整ったパラリンピック陸上競技場 (織田フィールド) ・グラウンドと仮設観客席／国旗掲揚ポール／紅白の幕の来賓席／メインスタンド／机に布をかける作業／白線が引かれたトラック 			
18	11月8日(日)	GTV	12:00~12:15	パラリンピック開幕 (83秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・織田フィールドにてパラリンピック開会式の様子 ・大会宣言 (太宰大会副会長)「ここに国際身体障害者スポーツ大会第一部の開会を宣言いたします」 /ファンファーレ ・グッドマン博士の挨拶 (日本語部分のみ) ・「ご来席の皇族、大臣、東京都知事、および紳士淑女の皆様……」 ・皇太子殿下のおことば ・「私はこのスポーツ大会が日本で開かれたことを心からうれしく思います。みなさんが、我国のみなさんの友人にどれほどの希望と激励を与えるかわからないからであります。どうかみなさんは日頃練習されたスポーツの腕前を十分にこの大会に発揮してください」 			
19	11月9日(月)	GTV	7:00~7:16	パラリンピック東京大会の選手にオシドリ夫妻が20組 (79秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ卓球チームの選手夫妻 (試合前に話し合う車椅子の夫婦、アメリカ対アルゼンチンの試合／拍手で応援する妻) ・イギリス選手の夫と飲み物 (紅茶) を入れる妻 (車椅子でキッチンでくつろぐ夫婦) 			

20	11月9日(月)	GTV	21:00~21:25	フェンシングなど8種目に熱戦 パラリンピック2日目(171秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内競技場で出番を待つ車椅子の各国女性フェンシング選手 ・アメリカ対イタリアのフェンシングの試合/観戦する日本人男子選手 ・スタートするストップウォッチ ・車椅子で競技するフェンシング女性選手(防具をつける女子選手/声援を送る男子外国人選手/選手に指示する車椅子のコーチと笑顔で聞く選手/真剣に観戦する日本の男子選手/試合の続き) ・夜の選手村の宿舎の様子/暗闇 			
21	11月9日(月)	GTV	不明	パラリンピック 女子フェンシング(167秒)
	・不明			
22	11月10日(火)	GTV	21:00~21:25	遅れている身体障害者の社会復帰(337秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック大会会場/会場前の記念アーチと並んだ参加国の国旗 ・開会式のような鼓笛隊/選手団の入場/日本選手の車椅子での行進/観客の拍手/皇太子殿下のおことば/青野繁夫の選手宣誓「宣誓。私たちは重度の障害を克服し、精神および肉体を練磨して愛と栄光の旗のもとに限りなき前進を誓い、正々堂々戦うことを誓います」/放たれる鳩/プラスバンドの演奏/選手たちを激励する皇太子殿下と皇太子妃殿下 ・車椅子回転競技(外国人・男性)/移動する日本人男性選手/卓球の試合(日本人・女性)/やり投げ、砲丸投げ(外国人・男性) ・会場を移動する車椅子の列 ・バスケットボールの試合(VS日本チーム)/観客の応援/高松宮ご夫妻 ・外国人女性選手のアーチェリー競技 ・宿舎で練習するアメリカの卓球選手(男女) ・参加日本選手のインタビュー <p>「我々が一緒になって働ける。そいでひとつのものでも大勢いればまとまると思うんですよ。我々の上半身は健康な人と何も変わらないわけなんですから。今ここで事業主側ですか、そういう方でも、我々の体というものを受け入れてくれています、じゃあその、筆をとれ、ペンを取れ、そろばんを持ってと言われれば十二分に我々は持てる体なんです。ですけれども、まだまだそこまで我々の体というものに対して、世間では見てくれないわけなんですよね。車椅子に乗っているから重度なんだと、下半身はダメなんだから家で寝せておいたほうがいいんじゃないかと言うような事業主ならびに世間一般の人の見る目というのはそういう風な問題じゃないかと思うんですよ」</p>			
23	11月11日(水)	GTV	12:00~12:15	車椅子競走などに熱戦つづく パラリンピック4日目(62秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの競技会場での車椅子競技 懸命に腕で車椅子を操作し、力走する外国人男性選手たち/観客席で応援する小学生たち/ゴールインする選手 ・遅れてゴールする日本人男子選手/声援を送る女子小学生たち 			
24	11月11日(水)	GTV	19:00~19:30	皇后陛下 パラリンピックを見学(111秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・選手村の会場前で待つ皇太子殿下と妃殿下、関係者 ・御料車から降り出迎えたグッドマン博士と握手をする皇后陛下 ・アーチェリー競技を見学する皇后と皇太子殿下、妃殿下 ・写真を見ながら会話する外国人選手と通訳日本人女性 ・外国人選手たちでにぎわう食堂の様子 ・車椅子で新聞を見る女性選手と警備員らしき日本人男性 			
25	11月11日(水)	GTV	不明	パラリンピック大会 ~水泳競技~(55秒)
	・不明			
26	11月12日(木)	GTV	7:00~7:16	パラリンピックきょう閉幕(101秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会場にてサインや写真を撮って交歓する日本人男性選手と外国人男性選手 ・織田フィールドでの競技/棒投げをする外国人女子選手(自分で実況してテープに録音するアメリカ人男子選手) ・選手村の土産品コーナーで日本人形やボラロイドカメラを見る外国人選手 ホールでのコンサートの様子/演奏する楽団/歓談する選手たち 			
27	11月12日(木)	GTV	19:00~19:30	勇気と友情を成果にパラリンピックおわる(94秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・代々木の国立屋内総合競技場でのパラリンピックの閉会式の様子(観客席の皇太子殿下と妃殿下/車椅子で整列した各国選手団) ・美智子妃殿下からサーベルを贈られるフェンシングの優勝選手 ・美智子妃殿下からトロフィーを贈られ握手をする日本の卓球選手 ・挨拶するグッドマン博士 ・掲揚台から下りる大会旗と日の丸 ・会場を退出する皇太子殿下と妃殿下/拍手で送る選手団 			
28	11月13日(金)	GTV	21:00~21:25	次のパラリンピック目指し総合グランド着工(76秒)
	<ul style="list-style-type: none"> ・山合いの施設を訪ねるパラリンピックの日本選手団(バスで乗りつける日本選手団/日の丸の小旗を振って迎える子どもたち) ・鼓笛隊/バスの窓からメダルを見せる日本人男子選手たち/施設の歓迎会で記念品を受ける日本人選手たち) ・総合グランドの着工式の様子(参列した関係者と自衛隊員/神官のお祓い/くわ入れをする関係者/整地作業をする自衛隊の機械) 山合いの建設工事現場) 			

29	11月14日(土)	GTV	7:00~7:16	障害者スポーツで活躍する沖縄選手 パラリンピック外国役員の慰労会（114秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック国内大会（第二部）の開会式の様子／各県のプラカードを先頭に選手団の入場行進 ・観客席／陸上競技男子100メートルのスタート／表彰台の沖縄選手 ・宿舎でくつろぐ沖縄選手団／胸に下げた2個のメダルを見せる男女の選手 ・パラリンピックの外国の役員の慰労会の様子 記念品を贈る自衛隊員／パラシュート部隊の装具で慰問する隊員／合唱する外国人役員と自衛隊員 			
30	11月14日(土)	GTV	12:00~12:15	パラリンピックの外国選手 第1陣帰国（75秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・選手村にて、帰り仕度をして自衛隊員の介添えでバスに乗り込む外国人選手（男性1名、女性3名） ・選手村を出発するバス ・羽田空港に到着するバス／バスから降りる外国人選手（男性1名） ぬいぐるみを持った女子選手／自衛隊員に支えられて飛行機に搭乗する選手（男性1名、女性1名） 見送る赤十字の救護班員／整列して帽子を振る自衛隊員 ・出発する飛行機 			
31	11月14日(土)	GTV	19:00~19:30	パラリンピックおわる（61秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・国立屋内総合競技場にて国内大会（第二部）の閉会式 体育館に整列した沖縄選手たち／観客席の様子／入場する皇太子殿下と妃殿下／観客席の様子 各県旗の入場／手拍子する皇太子殿下／役員の挨拶／掲揚台を下りる大会旗と国旗 			
32	11月18日(水)	GTV	14:00~14:05	パラリンピック会長 グッドマン博士に勲3等（48秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生大臣室での伝達式の様子 神田博厚相を訪ねたロードウィッチ・グッドマン博士／勲3等旭日中綬章を贈る神田厚相／勲章を胸に喜ぶグッドマン博士 			
33	11月19日(木)	GTV	19:00~19:16	さようなら選手村 4年後は森林公園に（95秒）
	<ul style="list-style-type: none"> ・選手村にて、バスに乗り帰国の途につくパラリンピックの車椅子の外国人選手たち ・見送りの人たちとサインの交換／見送る自衛隊員／出発するバス ・選手村（空撮）／宿舎や施設／参加国旗が並ぶメインホール ・宿舎となった建物から机やベッドを運び出す作業 ・屋内総合競技場と周辺を歩く見学者 			

(注) NHKアーカイブス作成のデータベースより筆者が検索・作成した。検索対象期間は、1963年11月から1964年12月まで。放送日、放送局、放送時間、副題はデータベースの情報による。内容の概要は、筆者が視聴により確認し作成した。ただし、「映像」がNHKアーカイブスに保存されていない場合、あるいは視聴不可の場合は、「不明」と表記した。「GTV」は総合テレビジョンの略記である。

が描かれている。構成は、車椅子バスケットボール日本代表選手（堤憲蔵、須崎勝己、桑名春雄、松永千之、郷計研二）の紹介、機能回復訓練および普段の生活の様子、練習・練習試合の様子、東京パラリンピック大会への出発と開会式、試合の様子（対フィリピン、対アメリカ、対フランス）となっている。なお、番組における最後のナレーションは次のように締めくくられている。「日本チームは全試合に敗れて、最下位となった。日本選手のたくましい闘魂は、ゲームの勝敗に関する限り、ついに報いられることはなかった。彼らがおかれている環境の違い、それがそのまま得点の差となってあらわれていた。それはどんなに偉大な精神力をもってしても、とうてい超えることのできない隔たりであった」。

補足的に、大会期間中を含む前6日間、後6日間のテレビ放送状況を表5に示す。表5を提示する理由は、本章で取り上げたニュース（表3）のおよそ9割、ニュース以外の番組（表4）のおよそ8割が、この期間に集中しているためである。表5には、放送時間が不明なニュースもある。しかしながら、全体としてニュースと関連番組が時間帯を問わず連日放映されていることを確認できる。

ここまでのNHKによる東京パラリンピック大会に関するテレビ放送をまとめるとすれば、障害者スポーツに特有の身体性および競技性を視覚化させることを指向しつつも、日本における障害者の社会復帰という課題を見据えて編集されたと理解できる。

表4 1964年4月から11月の番組（ニュース以外）の概要

	放送日	放送局	番組名	放送時間	副題（放送内容・出演者ほか）
1	4月2日(木)	GTV	きょうの話題	7:45～7:59	「世相ニュース」(身障者オリンピックをめざして)
2	7月14日(火)	GTV	けさの話題	7:20～7:41	(パラリンピック成功祈願富士登山を実施する 日本身体障害者団体)
3	9月28日(月)	GTV	あすへの歩み	23:10～23:40	「月間社会福祉の動き」(氏家馨)
4	11月2日(月)	GTV	今週のトピックス	7:45～8:00	「パラリンピック開会」(葛西嘉資)
5	11月2日(月)	GTV	婦人の時間	13:20～14:00	「希望訪問」(リハビリテーションセンタ／パラリンピックによせて～大分県別府市で録画～／中村裕)
6	11月5日(木)	GTV	けさの話題	7:20～7:41	「時の人」(パラリンピックで選手宣誓をする／青野繁大)
7	11月6日(金)	GTV	東京パトロール	7:45～8:00	「近づくパラリンピック」(フィルム構成)
8	11月7日(土)	GTV	茶の間の科学	8:40～8:59	「せき髄マヒとパラリンピック」(今井銀四郎、安藤徳次)
9	11月8日(日)	GTV	パラリンピック 東京大会開会式	10:30～11:00	「東京・代々木パラリンピック選手村織田フィールドから中継」
10	11月11日(水)	GTV	パラリンピック 東京大会	15:00～15:30	「国立屋内総合競技場別館から中継」 (車いすバスケットボール競技「日本」対「イギリス」)
11	11月12日(木)	GTV	パラリンピック 東京大会	15:00～15:30	「代々木選手村内職田フィールドで録画」(車椅子競走)
12	11月13日(金)	GTV	婦人の時間	13:20～14:00	「話のスポット」(パラリンピックに参加して／小笠原文代、中川一彦)
13	11月16日(月)	GTV	あすへの歩み	11:10～11:40	「パラリンピックを終わって」(神田博、黒木猛俊、中村裕)
14	11月20日(金)	GTV	現代の映像	7:30～7:59	「車椅子の闘魂」(本文参照)

(注) NHKアーカイブス作成のデータベースより筆者が検索・作成した。検索対象期間は、1963年11月から1964年12月まで。放送日、放送局、番組名、放送時間、副題はデータベースの情報による。「GTV」は総合テレビジョンの略記である。再放送の情報に関しては省略した。

まとめにかえて

本研究の目的は、東京パラリンピック大会に関してNHKでテレビ放送された映像を発掘し、一覧として整理・提示することで、東京パラリンピック大会研究の基礎資料を整備することであった。本研究の調査で確認できた資料は、NHKアーカイブスがデータベース化している、1962年7月から1964年11月までのニュース42件、番組（ニュース以外）19件であった。それらのうちに「映像」が保存され視聴が可能なものは、ニュース36件、番組（ニュース以外）2件であった。ニュース映像については、ナレーション等の音声はほとんど保存されておらず、番組（ニュース以外）に関しても1割程度しか「映像」が現存しないため、資料的な制約は少なくない。しかしなが

ら、NHKアーカイブスにおいて今後さらなる資料の発掘が困難であることを考えると、本研究では基礎資料の整備が一定程度行なえたと考える。また、本稿ではNHKが東京パラリンピック大会をどのように放映したかについて、部分的ではあるが明らかにしたことで、それらの歴史資料的価値の一端に触れることができたと考える。

最後に、本研究での検討結果に基づいて、東京パラリンピック大会を対象とした歴史研究の資料的課題に言及して、まとめにかえることとする。まず、東京パラリンピック大会の開催経緯について、内部文書等の一次資料に基づいた精緻な分析が必要である。これに関連して、大会関係者や参加者の個人資料（聞き取り、手記など）の発掘と考察が必要だと考えられる。また、日本以外の参加国における体系的な資料の発掘も重要であら

表5 東京パラリンピック大会期間を含む前6日間、後6日間のテレビ放送状況（1964年11月2日～20日）

	2日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	16日	18日	19日	20日	
	(月)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)					
						(第一部開催期間)						(第二部)					
7:00	番組		番組	番組	ニュース	ニュース	ニュース			ニュース		ニュース					番組
8:00					番組												
9:00																	
10:00						中継											
11:00													番組				
12:00				ニュース		ニュース			ニュース			ニュース					
13:00	番組										番組						
14:00														ニュース			
15:00									中継	録画							
16:00																	
17:00																	
18:00																	
19:00	ニュース			ニュース	ニュース				ニュース	ニュース		ニュース				ニュース	
20:00																	
21:00	ニュース	ニュース					ニュース	ニュース			ニュース						
22:00																	

(注) 表3および表4に基づいて筆者が作成。番組は、ニュース以外の番組を示す。

放送時間帯が不明なニュース（7日：4件、9日：1件、11日：1件）は表に反映していない。

う。次に、本研究に関連して、NHK以外の放送局で東京パラリンピック大会が放映されたのかどうか、放映されていた場合にはどのような内容であったかを明らかにする必要がある。加えて、新聞、雑誌、記録映画などのメディアによる資料を発掘することで、東京パラリンピック大会を多面的に分析することができよう。今後の課題としたい。

注および引用・参考文献

- 1) 「障害者」、「障碍者」、「障がい者」と表記される場合があるが、引用文との整合性を重視して、本稿の本文では「障害者」、「障害」に統一して使用する。
- 2) 「パラリンピック」という名称が広く使用されるまでは、日本では「身体障害者五輪」、「身障者五輪」、「身体障害者オリンピック」、「身障者オリンピック」、「身体障害者競技会」といった名称が使用されている。また、「パラリンピック東京大会」と称される場合もある。
- 3) 「国際身体障害者スポーツ大会の開催について」(昭和39年10月23日 閣議報告)、国立公文

書館所蔵『国際身体障害者スポーツ大会』所収。

- 4) 「パラリンピック」という用語の日本における初出は明らかにされていないが、1961年7月8日付『読売新聞』の朝刊(「ときの目」7頁)において、渡辺華子が「パラリンピック」という用語を使用している。
- 5) ここでの「パラリンピック」という用語は、「パラレル (Parallel)」と「オリンピック (Olympic)」を組み合わせたものと再定義されている。
- 6) 中川一彦「パラリンピック競技大会の夜明け」『筑波大学体育科学系紀要』第20巻、pp. 1-7、1997。蘭和真「東京パラリンピック大会と障害者スポーツ」『東海女子大学紀要』第22巻、pp.13-23、2002。一方で、日本における「障害者スポーツ」を対象とした人文科学的研究は、主としてスポーツ社会学の領域で実施されている。蘭和真「障害者スポーツの報道に関する研究—1945年～1999年の朝日新聞の分析—」『教育医学』第47巻第5号、pp.374-380、2002。藤田紀昭「障害者スポーツとメディア」

- 『現代メディアスポーツ論』世界思想社、2002、pp.197-217。藤田紀昭「障害者スポーツというフィールド」『現代スポーツのバリエーション』大修館書店、2006、pp.154-172。渡正「パラリンピックの表象実践と儀礼的関心」『スポーツ観戦学』世界思想社、2010、pp.230-251。渡正「障害者スポーツによる儀礼的関心の構築—1970年代の「運動」とパラリンピックの表象—」『千葉大学日本文化論叢』第8巻、pp.106-93、2007。これらの研究においては、社会的な分析概念や枠組みを用いて、メディア、身体、ジェンダー、教育などとの関連で「障害者」と「スポーツ」を論じている。
- 7) 財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会『パラリンピック東京大会報告書』1965。同『パラリンピック国際身体障害者スポーツ大会写真集』1965。
- 8) 日本放送協会編『放送受信契約数統計要覧<平成24年度>』p.15、<http://pid.nhk.or.jp/jushinryo/knownow/pdf/toukei2012.pdf> (2014年6月3日閲覧)。
- 9) 請求番号「分館-01 039-00 平3総-00964-100」(件番号:30)。次の資料から構成されている。①「国際身体障害者スポーツ大会に対する総理大臣賞の下附について」(第80号)(受付、起案:昭和39年10月22日)。②「名刺」厚生省社会局厚生課長 今野恒雄。③国際身体障害者スポーツ大会運営委員会 会長 葛西嘉資「国際身体障害者スポーツ大会に対する総理大臣賞の下附について」(昭和39年10月15日)。④厚生大臣「国際身体障害者スポーツ大会に対する総理大臣賞の下附について」(厚生省発社第223号)昭和39年10月21日。⑤財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会「招請状送付先」、「国際身体障害者スポーツ大会第1部(国際大会)参加予定選手数一覧 39. 10. 10現在」、「国際身体障害者スポーツ大会第2部(国内大会)参加予定選手数一覧 39. 10. 10現在」。⑥「国際身体障害者スポーツ大会の開催について」(昭和39年10月23日 閣議報告)。^⑦「パラリンピック・国際身体障害者スポーツ大会」(作成者・作成年月不明、1枚)。^⑧財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会、広報部会「広報資料 PARALYMPIC TOKYO1964 パラリンピック・国際身体障害者スポーツ」(作成年月不明、18ページ)。^⑨財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会「国際身体障害者スポーツ大会(解説)」(作成年月不明、11ページ)。
- 10) 1960年の第9回国際ストック・マンデビル競技会は、開催地をロンドンからはじめてオリンピック開催地(第17回夏季大会)であるローマに移して開催される。以降、夏季オリンピック開催年には、その主催地での大会開催が模索される。1959年5月にオリンピック東京大会(第18回夏季大会)の開催が決定していたため、1960年末には極少数の日本人関係者の間では国際ストック・マンデビル競技会の日本開催が話題になっていたようである。国際身体障害者スポーツ大会運営委員会『国際身体障害者スポーツ大会を迎えて』1964、p.35。
- 11) 前掲『パラリンピック東京大会報告書』、p.23。身体障害者更生指導研究会(1961年4月)における太宰博邦(当時の厚生省社会局長)による発言である。
- 12) 前掲『パラリンピック東京大会報告書』、p.24。
- 13) NHKニュース「身障者スポーツ生みの親『太陽の家』」(1981年5月29日22:30~)。このニュースの中で、大会の映像が一部ではあるが放映されている。同ニュースで、中村裕は同大会について「みんなの前でスポーツをやらせることは、あなた医者ですけれども、いいことですと言われ、非常に苦勞しました」と述懐している。その後、1963年5月20日には厚生省社会局長から都道府県知事・指定都市市長に対して「身体障害者スポーツの振興について」(社発第370号)が通知され、添付された「身体障害者体育大会実施要綱」に準拠して行なわ

- れた大会の運営に対して、国から予算補助が措置されることが示されている。
- 14) NHK厚生文化事業団は、1962年7月の第11回国際ストック・マンデビル競技会の派遣経費にかかる借入金の保証人となっている。前掲『パラリンピック東京大会報告書』、p.27。
- 15) 『官報 昭和38年11月11日』第11073号、大蔵省印刷局、p.24、1963。
- 16) 前掲『パラリンピック東京大会報告書』、pp.53-65。
- 17) 「国際身体障害者スポーツ大会の準備」『厚生』第19巻第2号、1964、p.51。前掲「広報資料 PARALYMPIC TOKYO1964 パラリンピック・国際身体障害者スポーツ」によれば、各部会は次の通り（括弧内は担当官庁団体）。企画連絡調整部会（運営委員会事務局）、関係官庁連絡調整部会（厚生省社会局厚生課）、選手村運営部会（東京都民生局保護部厚生課）、資金対策部会（社会福祉事業振興会）、通訳部会（日本赤十字社青少年課）、サービス部会（鉄道弘済会身障福祉部）、国内選手強化対策部会（全国社会福祉協議会業務部）、競技部会（在京国立援護施設）、研究視察部会（厚生団）、広報部会（中央共同募金会、全国社会福祉協議会広報部）。
- 18) 「国際身体障害者スポーツ大会の開催について」（閣議報告 昭和39年10月23日）。
- 19) 「パラリンピックSpecial Site」<http://www.jsad.or.jp/paralympic/what/tokyo1964.html>（2014年6月3日閲覧）より。なお、メキシコからは役員のみ参加がある。また、前掲『パラリンピック国際身体障害者スポーツ大会写真集』、p.16。および、中村裕「国際身体障害者スポーツ大会を終りて」『整形外科』第16巻第5号、p.460、1965、には、参加選手数が377名となっている。
- 20) アーチェリー、車椅子バスケットボール、車椅子フェンシング、水泳、卓球、パワーリフティング、スヌーカー、ダーチェリー、陸上競技。なお、当時のパンフレット（前掲「パラリンピック・国際身体障害者スポーツ大会」）には陸上競技が「こん棒投げ、円盤投、やり投、やり正確投、砲丸投、車椅子スラローム」として種目となっている。
- 21) 前掲中村裕「国際身体障害者スポーツ大会を終りて」、pp.466-467。
- 22) 肢体不自由者<競走：60m、100m、100障害競歩、走高跳、立幅跳、走幅跳、砲丸投、棍棒投、槍正確投、車椅子スラローム、水泳：自由型、平泳、背泳（25m、50m）、卓球、洋弓>、視力障害者<競走：100m、1500m、100m円周走、三段跳、走高跳、立幅跳、走幅跳、砲丸投、ソフトボール投げ、ハンドボール投げ、水泳：自由型（25m、45m）>、聴力障害者<競走：100m、200m、400m、1500m、5000m、三段跳、走高跳、走幅跳、砲丸投、水泳：自由型、平泳、背泳（50m、100m）、卓球>。同上、p.467。なお、当時のパンフレット（前掲「パラリンピック・国際身体障害者スポーツ大会」）では、「肢体不自由者競（12種目）、視覚障害者競技（12種目）、聴覚障害者競技（11種目）」となっている。
- 23) 陸上競技であると推察される。

〔付記〕

本研究は、NHKアーカイブス学術利用・関西トライアルⅡ（第2期分）「障がい者スポーツの記録と物語」の成果の一部である。